

渡辺 信\*・中村泰男\*・森 栄\*\*・矢持 進\*\*\*: 大阪湾に出現した *Heterosigma akashiwo* の増殖特性

大阪湾に赤潮として出現した *Heterosigma akashiwo* をマイクロピペット法で分離して無菌培養株を得、その増殖特性を解析した。本株は水温 15-25°C, 塩分 9~30‰, 照度 0.034 ly·min<sup>-1</sup> 以上で、また調べられた pH 範囲 (7.3~8.4) すべてで最大の増殖を示した。増殖の為に窒素源としては硝酸態窒素, アンモニア態窒素双方がよく利用されたが、低濃度の尿素は硝酸態窒素, アンモニア態窒素ほどには利用されず、また、アミノ酸は全く利用されなかった。本株の硝酸態窒素同化速度は 0.29—1.6 μmol·cell<sup>-1</sup>·day<sup>-1</sup> であり、又細胞内窒素最小含有量は 1.44 μmol·cell<sup>-1</sup> であった。燐源としてはオルト燐酸のみが利用された。燐酸の同化速度は 8-120 fmol·cell<sup>-1</sup>·day<sup>-1</sup> であり、又細胞内燐最小含有量は 95 fmol·cell<sup>-1</sup> であった。鉄, ビタミン B<sub>12</sub> は本株の増殖に必須であった。本研究で明らかとなった本株の増殖特性と *H. akashiwo* の他の株, 福山株 (IWASAKI *et al.*, 1968), 五ヶ所株 (IWASAKI and SASADA 1969), Naragansett 株 (TOMAS 1978, 1979, 1980) の増殖特性を比較・検討したところ、*H. akashiwo* は少なくとも 3 種の生理生態的に異った群よりなることが判明した。(\*305 茨城県筑波郡谷田部町小野川, 国立公害研究所水質土壌環境部 \*\*980 仙台市提通雨宮町 1 の 1, 東北大・農 \*\*599-03 大阪府泉南郡岬町多奈川谷川 2926-1, 大阪府水産試験場)

## 案 内

## ——緑藻類の分類大系に関するシンポジウム——

Symposium on:

## The Systematics of the Green Algae

上記のシンポジウムが分類学協会 (The Systematics Association) 後援のもとに、1983年3月29日~31日に英国ロンドンの The Polytechnic of North London において開かれます。シンポジウムは主に招待講演によって構成され、英語が使われます。第1次サーキュラーによると、プログラムの概略や参加申し込み手続きなどは下記の通りである。

## プログラム

- 第1日 緑藻分類の検討, 緑藻分類学への超微構造と生化学の寄与及び環境がもたらす変異によって引き起される問題等を含むジネラル・トピックス
- 第2日 Desmids, Ulotrichales, Cladophorales など, 特定現生藻類に関する検討
- 第3日 現生・化石藻を含むその他の特定分類群の検討

## 予定招待講演者

A. J. BROOK (U.K.), R. L. CHAPMAN (U.S.A.), G. ELLIOT (U.K.), E. KESSLER (F.R.G.), G. M. LOKHORST (Netherlands), K. R. MATTOX (U.S.A.), M. MELKONIAN (F.R.G.), J. D. PICKETT-HEAPS

(U.S.A.), F. E. ROUND (U.K.), C. VAN DEN HOEK (Netherlands), P. C. SILVA (U.S.A.), C. J. O'KELLY (U.S.A.)

## ポスターセッション

シンポジウム期間中、ポスターセッションが計画されているので、希望者は申し込むこと。

## 宿泊その他

会場のポリテクニク・ホテルにおける宿泊料 (朝・夜食込み) は約12ポンド/日, 昼食4ポンド。

参加費 (お茶代含まず) 15ポンド。学生10ポンド

第2次案内は1983年1月に郵送される予定で、全プログラムとポストシンポジウムワークショップ (4月1日~2日) に関する詳細が示されることになっている。参加登録と詳細の問い合わせは

DR D. E. G. IRVINE

Department of Food and Biological Sciences  
The Polytechnic of North London

Holloway Road

London N7 8DB

ENGLAND

- WATANABE, M., PRESCOTT, G. M. and YAMAGISHI, T. 1979. Fresh-water algae of Papua Ne Guinea (2) Desmids from Waitape, central district. In S. KUROKAWA (ed.) Studies on Cryptogams of Papua New Guinea. Academia Scientific Book Inc. Tokyo.
- WEST, W. and WEST, G. S. 1897. WELWISTCH'S African freshwater algae. J. Bot. 35: 172-183.
- WEST, W. and WEST, G. S. 1901. Freshwater Chlorophyceae, in J. Schmidt's Flora of Koh Chang. (Gulf of Siam). Bot. Tidsskr. 24: 73-102.
- WEST, W. and WEST, G. S. 1907. Freshwater algae from Burma, including a few from Bengal and Madras. Ann. Roy. bot. Gdn. Calcutta 6: 175-260.
- WEST, W. and WEST, G. S. 1904-1908. A monograph of the British Desmidiaceae, vol. 1. 1904; vol. 3, 1908. The RAY Society, London.

#### B. N. プラサド・P. K. ミシュラ・R. K. メロートラ: アンダマン島産ツヅミモ数種についての観察

本論文では、アンダマン島から採集した、ツヅミモ 9 属 20 種について述べている。これらの全ては、今までインドにおいては全く記録されていないものばかりである。

### 第11回国際海藻学会議のお知らせ

第11回国際海藻学会議 (XIth International Seaweed Symposium) が1983年6月19~25日に中華人民共和国の青島市で開催される。第2次サーキュラーによると、プログラムの概略や参加申込み手続きなどは下記の通りである。

#### プログラム

- 1 特別講演 内容は第3次サーキュラーで発表。
- 2 シンポジウム 3つのシンポジウムが開かれる。  
(1)香料および医薬用としての海藻 (2)微細藻の生産と利用 (3)紅藻オゴノリ属の分類  
以上の詳細は第3次サーキュラーに発表。
- 3 一般講演 (1)有用海藻の生物学 (2)海藻の化学と生化学 (3)藻類の生産と利用と生産物。
- 4 ポスター

#### リセプション等

6月19日 中国科学院主催リセプション, 6月24日 青島市招待晩餐会, 6月19~25日 同件者のためのエクスカージョン, 6月25日ポートによる昆布養殖等の見学(費用10ドル)。

#### ポストエクスカージョン

- (1) 青島—烟台—大連—北京 (10日) 680ドル, (2) 青

島—上海—広州—海南島—広州—香港 (14日) 1040ドル, (3) 青島—北京—南京—上海—杭州—香港 (13日) 920ドル, (4) 青島—北京—桂林—広州 (9日) 790ドル (5) 青島—北京 (3日) 380ドル

#### 宿泊

ホテル (含昼・夕食) 30~35ドル/1人/2人合部屋, 45ドル/1人/1人部屋

#### 申込み期日, 締切日

講演とポスターの要旨 1982年12月31日  
参加申込み 1983年2月1日 参加費は1983年2月1日以前の払込みであれば150ドル (同件者75ドル), それ以後であれば200ドル (同件者100ドル)  
宿泊申込み締切日 1983年2月1日  
さらに詳しい内容は第3次サーキュラーに掲載の予定であるので, 希望者は下記に申込みこと。

#### The Secretariat

c/o Institute of Oceanology (海洋研究所)  
Academica Sinica (中国科学院)  
7 Nan-hai Road, Qingdao (青島市南海路7)  
China (中華人民共和国)